

私は最近、三人の知人を亡くした。追悼の思いを込めて書きたい。

宮崎県日向市の「日向新生教会」の牧師をしておられた山本爽起子牧師が、6月18日に、91歳で生涯を終えられた。私は隣町の「延岡三つ瀬教会」に在任していた。山本牧師は三角形の個性的な新教会堂を献堂された。式ではギリシア風の白いガウンを着ていた姿が印象に残る。宮崎県の高校生の集会を企画し、指導しておられた。私も幾度か駆り出された記憶がある。地方の教会は、牧師同志が協力し合い、仲がいい。大学で哲学を学んだ後、同志社大学の神学部に行き、牧師になられた。日向市で60年くらい牧師をしておられたのではないか。私が延岡を離れてから交流はなくなったが、小さな教会で、年金が少なく、隠退もできないと聞いていた。かなり高齢となってから、隠退されたが、牧師館に住み続けておられた。ところが、教会員の本田宏さんが、山本牧師が亡くなる前に、結婚を申し込まれ、山本牧師は本田さんの妻となり、妻として葬儀をされた。『信徒の友』には、「遺族は山本宏氏（夫）」と報告されている。山本牧師は、数的には、さほどの成果は上げられなかったが、日向市に腰を据えて、生涯を日向市の伝道に献げられた。本田さんの妻になり、安心して天に旅立ったのではないか。驚くような嬉しい出来事である。

南吉衛牧師が、6月26日、81歳で亡くなられた。神学校の2年後輩である。外語大学を出られ、神学校に来られた。神学生時代も、卒業後も、交流はなかったが、南牧師が隣の「横浜磯子教会」に赴任して来てから、急激に交わりが深まった。二人で温水プールに行き、また、よく飲み会をし、楽しい時を持った。南牧師がドイツの「ケルン・ボン日本語教会」に赴任することになり、「横浜磯子教会」会員2名と私とで「南牧師夫妻を支える会」を作り、5年間、支援活動をした。この間に「支える会」のご夫妻と私たち夫婦と四人で、南牧師夫妻を訪ね、ヨーロッパの四か国を案内してもらった。私がアウシュビッツでスリに会い、届け出のため、皆から遅れたが、暗いプラハの駅で、私たちの到着を何時間も待ってくれた彼の優しさに心打たれた。印象深い旅であった。「信濃町教会」に仕えて、新会堂献堂後、また、ドイツで働かれた。帰国後、三重県の「桑名教会」に赴任された。その頃からめまいで苦しみ、また、病を得、隠退し入院された。見舞いに行きたかったが、コロナで会えないまま、お別れとなってしまった。牧師は、どこにいても、福音宣教に全力を尽くす。親しく宣教の労苦を分かち合った友を失ったことは悲しい限りである。

妻の甥が8月21日、39歳の若さで、急逝した。日曜日の午前3時頃に熱が出て、コロナを疑い、別室で休んでいた。少し熱が下がり、昼食を食べて、眠った。夕刻、息をしていないのを気付いて、救急車を呼んだが、既に亡くなっていた。病理解剖によりコロナに感染しており、死因はコロナによる急死で、極めて稀なケースであるとの報告であった。

甥の婚約式は東京で行われ、お祝いに行った。現在、5歳と2歳の子どもが与えられており、幸せの絶頂であった。家族で教会に繋がり、教会学校教師もしていた。彼は小学校の教師をし、明るく、歌も上手で、生徒に人気があったという。友人も多かった。あつという間の逝去である。奥さんは現実を受け入れられず、どれほど動転しているだろうか。頼りであった夫を失い、行く末が案じられる。生徒たちの悲しみも深い。人の命は誰にも計れないが、こんな悲しい死はない。今はただ残酷としか思えないが、救いの中の出来事であったことを知る日が必ず来る。その日を信じて、耐え、彼の信仰を受け継いでいくしかない。ご遺族の上に、主イエスの慰めと励ましを切に祈る。